

第5回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 議事録（概要）

1 日時

令和4年（2022年）10月12日（水）10時00分～正午

2 場所

県庁本館 地下大会議室

3 出席者

八幡英幸委員、野口泰喜委員、藤本英行委員、足立國功委員、大平雄一委員、音光寺以章委員、吉永公力委員、本田裕紀委員、原公德委員、作田潤一委員、牛田卓也委員、田中篤委員、池田廣委員、田中万里委員、松島雄一郎委員、夏木良博委員（計16人）

4 概要

（1）開会

（2）出席者紹介

事務局が出席者紹介をし、設置要項第6条第2項の規定に基づき、本会が成立することを報告した。

（3）日程説明

事務局が会次第の説明をした。

（4）会議の公開・非公開

八幡会長が運営要領の第5の規定に則り、会議の公開・非公開について諮った。委員から異議なしで公開を決定した。

（5）議事

- 第4回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会の論点整理等について
- 入学者選抜制度の今後の方向性について

<配布資料>

- ・第5回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 会議次第

【事務局】

資料1により第4回検討委員会の論点について説明した。

【事務局】

第4回で質問があった制度変更した都道府県における受検者数の変化について、受検者数による単純比較ができないことから、制度変更の検証という質問の趣旨を踏まえ、宮城県、千葉県、佐賀県の制度変更前後における倍率の変化を説明した。

また、第4回で質問のあった熊本市立高校の入試制度改革の情報について、公表資料をもとに、令和5年度入学者選抜における変更点と令和6年度入学者選抜における学力検査問題及び面接の実施予定について説明した。

【作田委員】

他県の例で、公立高校を受検しなかった生徒がどこを受検したか情報があれば知りたい。

【事務局】

御質問の内容については把握できていない。

【牛田委員】

熊本市立高校の令和6年度入試で実施する面接は、受検生全員に課すのか。

【事務局】

御質問の内容については現在のところ把握できていない。

【事務局】

前回質問があったスクール・ミッションの更新の頻度について、本県教育委員会では概ね4年を期間としていることを補足説明した。

【八幡会長】

これまで本委員会では各都道府県の入学者選抜を5つのパターンに分類して、御意見をいただいた。これまでの論点整理を踏まえると、入試を一本化すること及び受検生の多様な能力や個性などが評価される制度を実施することという大きな2つの方向性が見えてきた。本日はこの2つの方向性に一番近いパターン4について、より具体的な事例を見ながら議論を深め、入試日程についても議論をしていきたい。この進め方でよいか。（異議なし）

【事務局】

（事務局が資料を配布した）

資料4、資料5、資料6、資料7、資料8及び資料9により宮城県、青森県、静岡県、広島県の選抜方法等を説明した。

【松島委員】

同一日程で選抜の順序というのは具体的にどのようなことになるのか。

【事務局】

例えば共通選抜の方から先に選抜をして、そこで不合格だった生徒を対象に特色選抜を行うというような意味での順序のことである。

【八幡会長】

試験実施の順序というよりは、合否判定の順序ということか。

【事務局】

その通りである。

【田中篤委員】

静岡県の例を聞くと、各学校で選抜方法が非常に違っているので、選抜方法の違いについて受検生に説明が必要だと思う。説明の仕方や周知の仕方はどうなっているか。

【事務局】

多くの県で実施要項を分かりやすくしたようなリーフレット形式のものを配布している。保護者等対象に動画を用いて説明会を実施している県もある。

【夏木委員】

青森県の再募集について、二次募集でも2つの選抜を行っているのか。

【事務局】

二次募集については2つの選抜は行われていない。

【大平委員】

選抜の割合などは各学校が定めると説明されたが、定めるのは誰か。

【事務局】

学校の中で入試の検討委員を定め、運営委員会などでも話をして、職員会議等で諮って最終的に校長が決定する。

【大平委員】

検討委員会の中にも地域の声が反映されるような形で特色づくりを行ってほしい。

【八幡会長】

仮に学校に裁量が認められた場合、どんな対応になるか、見直しをお聞きしたい。

【牛田委員】

経験上、公平性の観点から地域の方に直接検討の場に入っていたことはないが、学校運営協議会や中学校の先生方との意見交換会等で様々な意見を汲み取って最終的に学校で決定している。

【原委員】

学校によって入試に大きな特色が出ると、子供たちは自分が興味を持った学校のためそれほど混乱はないと思うが、指導する中学校の教員が混乱する恐れがある。ある程度、教育委員会が主体性を持った制度であった方が混乱が少ないのではないかと思う。

【音光寺委員】

前期(特色)選抜では、重視する観点に沿って選抜していると思うが、どういった判定基準なのが見えない。配点や割合など可否の判定基準が明確になると、受検生も保護者も結果に納得できるのではないか。高校側も、スクール・ポリシー等を踏まえて求める生徒像を明確に示すことができるのではないか。「見える化」した方がよい。

【松島委員】

現在、本県の高校入試で面接は行われているか。

【事務局】

前期(特色)選抜で一部の学校が面接を行っているが、後期(一般)選抜では課していない。

【松島委員】

面接の必要性が明確であれば実施に納得いくが、必要性が見えない中で面接を実施するのは疑問がある。

【八幡会長】

大学入試での面接の取扱いについても得点化するところまで面接の精度が保証できるのかということもあり、議論が分かれ、A、B、C、D、E判定とするようになっている。

【牛田委員】

受検生の数を考えると、全ての学校で必ず実施とするのは技術的にも時間的にも厳しい。英語科や理数科などで特色を出す方法として面接を使いたいという学校にはよい。

【池田委員】

私学では、個人面接、集団面接の両方が行われている。所属校では面接は得点化せず、判定に使用している。受検生の多い学校ではかなり時間がかかっている状況。遠方から受検している生徒等には早めに面接を実施するといった配慮をしている。

【夏木委員】

選抜方法の選択について、受検生全員を共通選抜の対象とするのか希望制にするのかでアプローチが正反対。全体のことを考えるとシステム上は選抜方法を共通にしておくのがいいが、受検生の立場からは選抜方法を希望できるのがよいのではないか。

【作田委員】

前期(特色)選抜で学力検査がないことで、やや学習がおろそかになる傾向があり、高校入学後の心配もある。特色選抜では学力検査を課す受検方法の有無を選択できてよいが、共通選抜では学力検査を全員受けて学力を保って高校入学するのが望ましいのではないか。

【牛田委員】

学力検査の受検の有無は、学力検査の結果を用いて選抜する二次募集にも影響するため、学力検査は全員受検するのが基本になると考える。

共通選抜と特色選抜について、全員対象とするのか、希望した生徒のみにするのかなど制度設計は難しいと感じる。同一日程にするということは、5教科の学力検査は全員受検するのが一番いいのではないか。

【事務局】

先ほど紹介した4県については、いずれも全員学力検査を受検することになっている。

【野口委員】

県立高校と私立高校では、充足率に15%ほどの差がある。選抜の方法と充足率の因果関係をどう受け止めているか。

【事務局】

充足率を上げるにはいろいろなファクターが絡んでくると考える。定員が減れば充足率は上がるが、受検生の動向は変わるため、因果関係を科学的に分析して読み解くことは難しい。定員の増減は施設面等からも容易ではない。充足率については重要な点であり、入試制度との関係を研究中であるが、この方法であれば充足率や倍率が上がるということだけにフォーカスして制度を考えるのは難しいと考えている。

【野口委員】

郡部の高校で、より魅力化を図ることで、受検生が地元に残るといった選択肢が出てくるのではないか。この点をもう少し考える必要があるのではないか。

【田中万里委員】

入学者選抜を変えて何を指すのかが分からない部分がある。定員割れをしている郡部の高校の魅力化を同時進行で考える必要があるのではないか。高校を選ぶのは子供であり、特色ある高校を選ぶ。魅力化、特色化に関する取組の情報も資料として提供いただきたい。

【八幡会長】

魅力化に関する委員会の報告書はまとめられていると思うが、それを資料として提示いただくことは可能か。

【事務局】

県立高校の魅力化に関しては、令和2年3月に提言という形でまとめ公開しているので次回提供する。県立高校の魅力化は同時進行で進めているところである。

【事務局】

第1回委員会で魅力化に関する提言書をお配りしているが、今年度新たに委員になった方もいるので改めて用意する。

【八幡会長】

魅力化のことをこの場で話すべきではないということではないが、魅力化に関してはすでに提言が出ており、本会では入試制度について御意見をいただくよう進行している。非常に尖った特色化を地域でやろうとする学校もある中で、学校にとってどういう入試制度であれば特色化がやりやすいかという観点から議論することが生産的ではないか。

【牛田委員】

魅力化したことを受検生にアピールし、特色化したことを入試に反映できるようにすることも一つの目的であり、検討すべきことではないか。また、中学生が自分の持ち味を学校とマッチングさせる視点が大事ではないか。充足率は募集定員との関係で単純に捉えられない面があり、数字だけを意識すると間違ってしまう。九州各県、高校入試や充足率については同じような課題を抱えている。

【八幡会長】

もう一つ入試の日程という重要な問題がある。パターン4については今のところ可能性が非常にあるということで、今行っている魅力化をさらに進める動きもこの中で組み込んでいけたらと考えている。

【事務局】

資料3により県立高校と私立高校の令和5年度入学者選抜日程について説明した。

【音光寺委員】

新型コロナウイルス感染症流行以前の入試日程を知りたい。

【事務局】

以前は、基本的に2月初旬に前期（特色）選抜、3月上旬に後期（一般）選抜を実施していた。二次募集は現在と変わらず3月20日頃実施していた。

【吉永委員】

現在の日程は臨時的なものか。コロナが終息する際には日程は元に戻るのか。

【事務局】

コロナが終息すれば元に戻るというのが基本になる。

【八幡会長】

入試日程について意見交換をしたい。前回、県立と私立が一緒になって調整する必要があるのではないかという意見が出ていた。また、先ほど一本化の中で、充足率や魅力化の問題などいろいろな要素を考慮していく必要があるという流れになっている。一本化と入試日程の兼ね合いを考えるとどうなるかということについて御意見をいただきたい。パターン4に絞るということではないが、入試日程の面から考えるとどうかということをご検討いただきたい。

【松島委員】

中学校3年間の学習、教育を充実させるため、私立が2月、県立が3月に実施するのがよいと思う。

【大平委員】

私立の入学手続きの締め切り日も踏まえて、私立と日程調整を行う必要があるのではないか。

【作田委員】

中学校3年間の教育を充実するという観点で、3月上旬の実施が望ましいと考える。大平委員からあった御意見も十分留意いただき、保護者、受験生の負担がないようお願いしたい。

【池田委員】

私学の専願生と奨学生の場合の入学手続きは、県立の合格発表の後までとすることはできる。私学では入試問題の作成にあたり、1月末まで学習範囲があると作問もしやすいのではないかと思う。

【田中篤委員】

入試が3月上旬になる場合、受験生や保護者が早く入学先を決めたいという思いを踏まえて、私学との日程調整は必ず行ってほしい。

受験生に不安を与えて出願を控えるようなことが起きないように、制度変更する際は、十分な周知をしていかなければならない。

【音光寺委員】

県立が3月上旬、私立の奨学生・専願生が2月1日、一般生が2月中旬になれば、従来の日程に戻るので現場として大きな混乱はないと思う。学習内容もしっかり終えられ、落ち着いて授業ができる。

【八幡会長】

全体に関して、再度日程も含めパターン4の中でさらにどうするか、今後の議論で是非ここを検討してもらいたいといった意見をいただければと思います。

【足立委員】

多様な入試制度になったとき、各学校を選んだ子供たちに区別が生じないように、教育委員会のフォローが必要になるのではないか。教育DXにより、子供たちのフォローができるので、盛り込んでいただければありがたい。

【松島委員】

一本化された場合、二次募集が重要性を増してくる。二次募集もセットで提案していくことで、二次募集への受検者数が増えるのではないか。この機会に二次募集についても並行して考えていければと思う。

【田中万里委員】

入試制度が変更になると、何年その制度が続くのか。

【事務局】

今の段階で明確な回答はないが、世の中の状況等を見て必要があると考えれば見直しをする時期が来ることは考えられる。当然一定の周知期間を置かなければ新しい入試制度は実施できない。ここで決まったからすぐに変わるということではない。

【田中万里委員】

入試制度を考える際、部活動の地域移行も影響してくるのではないか。今後は部活動の地域移行も含めて検討していく必要があるのではないか。

【八幡委員】

高校入試の方式の変更案についてパブリックコメントは行うのか。

【事務局】

今後皆さんの御意見をいただきたいところだが、そのような形をとるべきではないかと考えている。

【吉永委員】

定員割れしている郡部の学校が夢を持てるような制度になるようにと思う。制度変更をした県でどのくらい周知期間があったのかや制度変更後の一部変更など聞きたい。次回の回答でも構わない。

【事務局】

次回回答する。

【八幡会長】

次回は、これまでの意見を踏まえて、パターン4を土台に、皆様からの意見を加えながら事務局に新制度の骨格案を作成してもらい、それをさらに検討するということがか。骨格案の作成を事務局に依頼することを提案する。(異議なし)

【事務局】

次回の検討委員会までに事務局で論点整理をする。

【事務局】

次回は12月中を目途に開催を予定している。

【事務局】

これをもって第5回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会を閉会する。

以上